

今回は勤続二〇年の医療事務主任の原野さんにインタビューしました。

Q1・勤続二〇年ということですが、振り返っ

てみていかがですか？
A. 「生なんて一瞬さ」という歌詞がありますが、過ぎてしまえば二〇年なんてほんとにあつという間でした。勤め始めた頃は子供もまだ小さくて休むことも多く、迷惑をかけることも多かった。本

とも多々ありました。が、いい同僚に恵まれ、家族の理解、協力もあり今日があるのだと思います。また多くの患者様にやさしく接していただき、幸せな二〇年間を送ることができました。本



漢方入門 ⑤⑥ 過敏性腸症候群と漢方

過敏性腸症候群は、腸の粘膜にがんや炎症などの異常がないのに、下痢や便秘を繰り返す病気で、幅広い年代でこの病気に悩む人が増えています。この場合、下痢も便秘も腸が痙攣して起こります。受験や仕事などのストレスによって自律神経のバランスが乱れることによって、腸が過剰に痙攣してしまうのです。

症状は3パターンに分けられ、激しい腹痛のあとに下痢をするものを「下痢型」、腹痛とともにウサギのフンのようなコロコロとした便が出るものを「便秘型」、下痢と便秘を交互に繰り返すものを「交代型」といいます。

漢方では、腸の機能のバランスを整える目的で治療を行うため、1つの漢方薬で下痢と便秘の両方に効く薬があります。具体的には、桂枝加芍薬湯(ケイシカシャクヤクトウ)が代表的な薬剤です。腹痛を伴う下痢と便秘の両方に効果があります。また、小建中湯(シウケンチュウトウ)もよく使われています。小建中湯(シウケンチュウトウ)は、体が弱く、登校時になると腹痛と下痢を起こすような子供にもよく使われ、虚弱体質改善にも役立ちます。これらの漢方薬には腸を温める作用があるので、その作用を打ち消すような冷たい飲み物や食べ物は避けて、できるだけ温かいものを口にするようにしましょう。

また、ストレスをため込まないようにしたり、規則正しい生活を心がけたりすることも大切です。

今回、保健福祉実習として曾山医院にて三週間、訪問リハビリテーションの見学や治療をさせていただき、非常に多くのことを学ぶことができました。日が経つにつれ、「何が問題点なのか!」「何故そ

保健福祉 実習を終えて

九月に三週間理学療法士の実習生を受け入れました。学生さんの感想を掲載いたします。

今回の実習をを通して曾山医院のスタッフの皆様にご教えたこと、ありがとうございました。三週間お世話になった患者様本当にありがとうございました。(関

西総合リハビリテーション専門学校 理学療法学科 土井智之)

れが必要なのか!」「どうすれば解決されるのか!」など基本的な考え方が不十分だと感じました。今回の実習でいかに自分が理学療法士を目指す前に、一社会人として未熟であるかというところがよく分かりました。



当にありがとうございます。出会いに感謝です。
Q2・勤務するにあたって日頃心がけていることはありますか？
A. 仕事を続ける上で大切なことは、何か楽し

しみを持つことだと思います。次の楽しみのために今日一日頑張ろう。そういう気持ちの積み重ねで続けてこられたのだと思います。また具体的に心がけていることは、体調を崩さないよう早出の前日は早く寝ることです。

A. これからも今まで以上に多くの人と関わりあい、少しでも若いスタッフのサポートができるように体力が続く限り頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。

ありがとうございました。私達も原野主任に続いていけるように頑張ります。(医療事務 福井 真巳)

電話：0799-62-5566 (診療時間内)

インターネット・携帯電話：http://www.ukr.jp/soyama/ (24時間対応)

携帯電話からは右のQRコードからでも予約できます



予約は
こちらから

